早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博 士 論 文 概 要

論 文 題 目

地方銀行の製糸金融と繭担保倉庫の発生
－ 明治二九年竣工　旧本庄商業銀行煉瓦倉庫建設過程からみる地域産業発達の近代的特質 －

Study on The Silk-Reeling Finance and The Warehouse for Cocoon as Collateral
－ On the Developing of Modern Characters of The Old Brick Warehouse as Commercial Bank of Honjo, completed in 1896 －

申 請 者

本橋	仁
Jin	MOTOHASHI

建築学専攻　歴史工学・建築表現史研究

2016 年 12 月

本論文は、明治 29(1896)年竣工「旧本庄商業銀行煉瓦倉庫」（以下、本庄煉瓦倉庫）の高い建設技術、それを実現し得た社会的背景の分析を通して、本庄・児玉という地方都市の明治中期における地域産業の近代化の特質を明らかにしたものである。

以下に、本論の各章の概要ならびに到達点を述べる。

本論<第 2 章旧本庄商業銀行煉瓦倉庫を事例とした繭担保倉庫の特徴>では、現存する本庄煉瓦倉庫の建築情報について、実測調査の結果をもとに、繭担保倉庫の形態についての事例報告をおこなった。内壁に塗られた漆喰や、キングポストトラスによる倉庫空間の確保などの機能的な側面と、また一方で、出入口側のみに用いられた、焼き過ぎ煉瓦の存在など、意匠的な検証も必要であることが分かる。2012 年に早稲田大学により調査に着手するまで、同建造物についての詳細な実測調査が行われてこなかった。調査によって記録した事項をここで示すとともに、欠損等の状況についてもヒアリングを含めた調査によってこれを補完した。

<第 3 章繭担保倉庫という機能からみた建築計画の分析>では、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫を成立至らしめる背景について、機能的特徴と、煉瓦組積建造物としての技術的特徴の二点をもとに分析した。これにより、まずは本庄煉瓦倉庫の特徴を明瞭にした。

建築計画的特徴としては、同時時代の養蚕技術書に掲載される繭の保管方法が、忠実に平面計画・断面計画として確認ができた。具体的には、開口部における網戸・漆喰板戸の併置、床下の通気口。四方に等間隔に配置された開口部があげられる。

煉瓦組積技術としては同煉瓦倉庫をつくる煉瓦の製造元が判明したことをはじめ、工事と並行した調査で、基礎の煉瓦組積の方法が明らかとなった。とくに興味深い技術的特徴は、1 階壁面下部に確認された持ち出し積みの痕跡である。これは、後述するが煉瓦造建造物の計画法を考える上で特筆すべき発見を含んでいることを指摘した。

<第 4 章明治中期における煉瓦組積部と木軸部の計画法>では煉瓦造建造物の計画における煉瓦組積部と、木軸部との関係性に注目し分析をおこなった。全体としては、「二階床組梁と煉瓦壁」に代表されるように、主構造となる煉瓦組積に、木軸部の計画は従属しているといえる。しかし、最も指摘したい点は「一階床組大引と通気口との間におこる矛盾」で取り上げたとおり、この床組に配慮された通気口の組積パタンの計画は、煉瓦組積部と木軸部の一体的な計画無くしては、成し得なかったということである。

日本の煉瓦造技術は、明治政府の欧化政策のなかで持ち込まれ、さらに地震を経験する中で独自の技術を築いた。また、それは近世からの高水準の建設技術のもとで組み込まれていったことも知られている。

つまり、煉瓦と木造という異なる技術背景のなかで生まれた技術が、従来の形式を固持するのではなく、柔軟に新しい技術体系との融合を図ったことが、この矛盾とその解決方法によって見えてくるのである。煉瓦造建造物における木軸部の分析を行うことは、いかにして日本が煉瓦造技術を導入しさらに発展を成し遂げたかを知りうる一つの手段であるともいえる。

そして<第 5 章絹産業と旧本庄商業銀行の設立背景>では、本庄商業銀行の設立背景に焦点をあてた。ここでは、これまで不明瞭であった本庄煉瓦倉庫の施工者から設計者、竣工年が明らかとなった『清水方建築家屋撮影』を紹介した。これにより、施工者は清水店、設計者は、同社の技士であった岡本鑒太郎・清水釘吉であった。また、建設期間は、「明治二十九年二月二十八日」から「落成　同　八月十日」と判明した。これら情報により、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫の建設にあたっての技術的特徴を分析するための背景を明らかにすることができた。

さらに加えて、地方銀行が建設する「繭担保倉庫」の役割の分析をおこなった。こうした繭を担保として資金提供をおこなうという地方銀行は、全国的に確認できる。しかし、同時代の文献を参照すると、銀行が担保の繭を銀行自身が管理し手元におくことは、まだ信用のない中小の製糸業者に対する融資におこなわれる際にとられる方法であることが判明した。つまり、本庄商業銀行が対象としていた融資先は地域の中小製糸業者であることがわかる。

本庄には当時、信州地方からの県外資本勢力が進出していた。信州は、原料繭の輸送が需要をまかないきれていなかった。そこで高崎線の開通を契機に交通の便のよい前橋、本庄に生産拠点を持つため、進出をしてきた。それにより、本庄でもともと操業していた民間器械製糸業の経営が圧迫されていた状況にあった。

「株式会社本庄商業銀行」は、こうした状況に対して本庄の地元有力者が、地元製糸業者を支援するために設立したものと推察される。本章ではこうした地方銀行を基点に、製糸業者と養蚕農家との間に構築される繭による経済流通の仕組みをみた。それにより地方銀行が地域産業の発達に果たした役割を明らかにした。

最後の<第 6 章>では、考察として「旧本庄商業銀行煉瓦倉庫建設過程からみる地域産業発達の近代的特質」を論じた。本研究では、煉瓦造、かつ繭担保倉庫の計画について研究を進めてきたが、このビルディングタイプの価値を論じるに当たり、同じく絹産業で栄えた上田と下諏訪の事例を参照した。その結果、繭倉の近代化は全国規模で推し進められ、木軸部についてはトラスの利用などが他地域にもみられるものの、煉瓦の利用については、本庄や深谷といった煉瓦生産地に比較的近い地域において限定されることがわかった。

さらに、本庄煉瓦倉庫では、外部から見た美観と、木軸部との不具合の解決を両立させるために、通気口を屈折させるという方法を採用していた。こうした方法は、類似例は現状見つからず、一般的な方法とは言えない。さらに、技術書にも

示されていない方法である。つまり、本庄煉瓦倉庫の計画に際して、清水店の岡田・清水の両技師による創意工夫といえるだろう。本庄煉瓦倉庫には、明治からの日本の技術発展において、煉瓦造なら必ず起こりうる命題に対して日本独自の技術発展を垣間見せていると考える。

最後に、結論として本研究の目的でもある繭担保倉庫の近代化遺産としての価値について述べた。近代化遺産への価値評価が日本で再認識されたのは、比較的近年のことであり、1990 年に確認できるものが最も古い。その後、群馬県発行の報告書などをはじめとして徐々に用いられはじめたが、その価値軸はいまだ曖昧だ。山本理佳著『「近代化遺産」にみる国家と地域の関係性』において、国家の成立原理を代弁するものとしての「近代化遺産」と、地域との認識のギャップについて指摘されている。
たとえば、本庄市内には養蚕の伝習所であった「競進社模範蚕室」や養蚕信仰の歴史を刻む石碑 などが市内の各所にのこる。また、未だに住居として利用されている養蚕民家などが実に多く残っているという事実もある。文化財としての認知の有無に関わらず本庄市における連綿とした絹産業の歴史は、そうした絹産業の数々の遺構によっても担保されている。本庄市においては、富岡製糸場の設置に伴い、繭取引の拠点とされたことから、本庄煉瓦倉庫の立地する中山道において、繭の取引で大いに栄えた。そして、本庄商業銀行は製糸業者に対して融資を目的として設立された銀行であった。こうした社会的な状況において、本庄商業銀行は、生糸生産のプロセスのなかで、直接的な連関の中にはなく、むしろ本庄という地方都市において「市街」の製糸家と「郊外」の養蚕農家とを結びつける触媒としての役割を果たしたともいえる。そして、煉瓦造の繭倉という絹産業の技術発展の経過と、煉瓦という材料の地域性がある。以上が煉瓦造による繭担保倉庫の特質であり近代化遺産としての価値として評価できる。
昨今、絹産業遺産を活かした観光の盛り上がりを受け、本庄市においても歴史の掘り起こしとそれによる地域振興が行われつつある。2017 年 3 月に改修が完了した旧本庄商業銀行煉瓦倉庫の改修工事も、こうした向きを受けてのものである。しかし、これまで述べてきたとおり地域における近代化遺産は、地域主義的なコンテクストの中においてこそ価値を持ち得るのであり、市内にのこる数々の遺構を、絹産業遺産として活用するためには、相互の関係構築が今後の課題となるであろう。

以上が、本論文の概要である。

早稲田大学　博士（工学）　学位申請　研究業績書

氏 名　　本橋　仁　　印

（2017 年　7 月　現在）

種 類 別	題名、　発表・発行掲載誌名、　発表・発行年月、　連名者（申請者含む）
論文 全 2 件	1. 明治中期　煉瓦造建造物における煉瓦組積部と木造軸組部の関係，日本建築学会計画系論文集，vol.82　no.734（2017 年 4 月），本橋仁、中谷礼仁. 2. 埼玉県本庄市における繭の担保倉庫の発生とその機能，日本建築学会計画系論文集，vol.82　no.731（2017 年 1 月），本橋仁，中谷礼仁. 3. “建築資料”とはなにかー自律分散システムによる建築アーカイブズの展望とその意義ー，アルケイア，南山大学史料室，Vol.7，pp.25-71，2013 年 3 月.本橋仁.
学術講演 全 19 件	1. 旧帝国ホテルの解体から移築に関する研究(その 1) 早稲田大学明石信道研究室による解体時調査について，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2016 年 8 月，豊島麻由佳，本橋仁，大内田史郎，渡邉舞，中川武. 2. 旧帝国ホテルの解体から移築に関する研究(その 2) 解体材料と復原材料からみた「様式保存」について，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2016 年 8 月，大内田史郎，渡邉舞，本橋仁，豊島麻由佳，中川武. 3. 建築家アドルフ・ロース全論考 初出掲載媒体の調査とリスト化に関する報告，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2016 年 8 月，石井宏樹，本橋仁，中谷礼仁. 4. 建築家明石信道の作品にみる「地縁的建築」の考察 新宿駅周辺の 4 つの作品分析を通して，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2016 年 8 月，永田奏，本橋仁，中谷礼仁. 5. 吉阪隆正の日記帳に関する報告，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2016 年 8 月，本橋仁，廣瀬翔太郎，中谷礼仁. 6. 江津市庁舎の設計過程にみる建築家吉阪隆正，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2016 年 8 月，諏佐遙也，本橋仁，廣瀬翔太郎，木村真拓，中谷礼仁. 7. 『西洋家作雛形』・『Cottage Building』比較研究 1 ： 明治初期日本における救貧行政からみる出版意図の再考察，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2015 年 9 月，本橋仁，中谷礼仁，丸茂友里，根来美和，廣瀬翔太郎. 8. 『西洋家作雛形』・『Cottage Building』の比較研究 2 ： 産業革命後英国における住宅改善の取り組みと本書の位置づけ，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2015 年 9 月，根来美和，中谷礼仁，本橋仁，丸茂友里 ，廣瀬翔太郎. 9. 『西洋家作雛形』・『Cottage Building』の比較研究 4 ： 明治初期日本における「建築」概念の美学的観点について，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2015 年 9 月，丸茂友里，中谷礼仁，本橋仁，根来美和，廣瀬翔太郎. 10. イギリス積煉瓦造建造物における開口部まわりの煉瓦配置　旧本庄商業銀行倉庫に関する調査・研究 その 2，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2013 年 8 月，百野太陽，中谷礼仁，本橋仁，福井亜啓，丸茂友里. 11. 清水店施工による煉瓦造担保倉庫の成立要因と建築的特質　旧本庄商業銀行倉庫に関する調査・研究 その 1，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2013 年 8 月，福井亜啓，中谷礼仁，本橋仁，百野太陽，丸茂友里. 12. 西洋モダニズム運動の受容過程に関する研究　2　戦前日本におけるアドルフ・ロースの紹介，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2013 年 8 月，原功一，本橋仁，癸生川まどか，齋藤亜紀子，中谷礼仁.

早稲田大学　博士（工学）　学位申請　研究業績書

種 類 別	題名、　発表・発行掲載誌名、　発表・発行年月、　連名者（申請者含む）
学会発表 （続き）	13. 西洋モダニズム運動の受容過程に関する研究　1　アドルフ・ロースの日本への紹介，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，　2013 年 8 月，本橋仁，原功一，癸生川まどか，齋藤亜紀子，中谷礼仁. 14. 近代日本建築教育の研究　早稲田大学建築学科・早稲田工手学校・早稲田建築講義録を事例として，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，　2013 年 8 月，堀井隆秀，本橋仁，中谷礼仁. 15. 岡田信一郎写真の整理と活用 住宅写真の考証を通して，建築史学会大会，2013 年 4 月，本橋仁. 16. Adolf Loos，Ins Leere Gesprochen，研究―2 ―著作第一集と皇帝即位 50 周年記念展示会の照合分析―，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2012 年 9 月，原功一，本橋仁，癸生川まどか，齋藤亜紀子，中谷礼仁. 17. Adolf Loos，Ins Leere Gesprochen，研究―1　―新聞記事を利用した皇帝即位 50 周年記念展示会の復元―，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，2012 年 9 月，本橋仁，原功一，癸生川まどか，齋藤亜紀子，中谷礼仁. 18. 黒田鵬心の大正期における出版活動とその背景，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，　2011 年 7 月，本橋 仁，中谷 礼仁. 19. 建築イデオロギーの意識的拡張 ： 村山知義と合理派建築会について，建築学会大会，学術講演梗概集，F-2，建築歴史・意匠，　2009 年 7 月，本橋 仁，中谷 礼仁.